

東港金屬

**環境報告書
2018**

1 トップメッセージ

真に効率のよい循環型社会を構築し次世代へ

代表取締役 **福田 隆**



当社は1902年（明治35年）創業の故銅店をルーツとしております。以来115年余、限りある資源は出来得る限り再利用することを信条として金属資源をリサイクルし、資源循環型社会へ戻す努力を続けて参りました。お陰様で皆様から身近なリサイクルパートナーとしてのご理解、ご支援をいただき、現在も業務を推進しております。

当社の環境マネジメント上での様々な取り組みの一つとして事務作業のIT化を着実に進めております。例えば本社及び千葉工場の新計量システム導入によるペーパーレス化もその一つで、伝票用紙使用量の削減と共に、従業員の残業も減少させることができました。この一年間に皆様からお預かりした廃棄物は、再資源化を含めた適切な処理をし、当社が目指す循環型社会構築への一助とすることが出来たことを、改めて御報告申し上げます。

これからの日本は少子高齢化で人口が減少傾向にありますが、一方、世界の人口は増加を続けており、食料不足や地下の貴重な資源の枯渇が心配されております。人口の増加は廃棄物の増加に連動し、それに伴い年々世界的に廃棄物の処理・管理が厳しくなっており、昨年末には中国がこれまで世界中から年間約700万トン以上を輸入していたプラスチック廃棄物の輸入を禁じたため、日本をはじめとして世界中が戸惑い、大きな難題を抱える状態が続いております。

既にEUでは、2030年までに全てのプラスチック容器包装をリサイクル可能にする方針等を打ち出しております。プラスチック依存社会からのパラダイムシフトが始まっており、日本国内も今回のプラスチック廃棄物の問題解決を、好機と捉え、業界を挙げてプラスチックの使用削減とプラスチック廃棄物の処理技術開発を進めていかなければなりません。

「真に効率のよい循環型社会を構築する」これが次の世代へ持続可能な社会を繋いでゆくための我々に課された課題です。自国での対応だけでなく、開発されたテクノロジーは世界に広めることも責務となります。我が国では、環境基本法の下に廃棄物処理法や個別リサイクル法が制定され、廃棄物のリサイクル技術が目覚しく発達してきました。この高度なリサイクル技術を世界に広めてゆくことで、世界の資源循環に大きな貢献が出来るはずで

そして現在は、AI化で工業用ロボットは進化を続け、自動車も自動運転化の開発が進む時代です。これから先の静脈産業（廃棄物処理業）は、動脈産業と連携し一体となって、AIを活用することで製品や資源の流れを完全ループ化して、その製品や資源の価値を出来得る限り目減りさせることなく再生・再利用し、循環し続ける形で成長してゆくことこそが、目指すべき企業形態と考えております。

今当社は、産業廃棄物処理業務をコアビジネスとして、使用済み・廃棄された物を無駄なく循環させるグループ会社を構成し、サーキュラーエコノミーを実現することで静脈・動脈産業の垣根を超えて大きな役割を果たしたいと、中長期ビジョンを立てて動き出しております。

2 目次

1	トップメッセージ	1	6	東港金属の責任と役割	9
2	目次	1		事業所リサイクルフロー、 環境安全管理の取り組み、 環境にかかわる教育・コミュニケーション、 地域との共生、事業所の安全衛生 情報セキュリティマネジメント体制	
3	東港金属株式会社について	2	7	グループ会社紹介	19
	会社概要、事業概要、会員資格を有する主な団体、 事業所ロケーション、沿革、許可・認定・認証			トライマテリアル株式会社 トライメタルズ株式会社 トライシクル株式会社	
4	環境マネジメントシステム	5	8	アーカイブ	21
	環境方針、環境マネジメント体制、 目標設定及び達成状況		9	編集方針	22
5	事業活動と環境負荷	7			
	マテリアルバランス、マテリアルバランス詳細				

3 東港金属株式会社について

3-1 会社概要

社名 東港金属株式会社 Toko Metal Co., Ltd.
 代表者 代表取締役 福田 隆
 創業 1902年（明治35年）7月
 資本金 1億円
 従業員数 129名（2018年10月1日現在）
 年商 73.7億円（2018年6月期）
 事業所 本社、本社工場、千葉工場、東京事務所、
天童支店
 協力会社 トライマテリアル株式会社
 トライメタルズ株式会社
 トライシクル株式会社

3-2 事業概要

- ◆金属スクラップ全般に関する業務（国内／輸出入）
- ◆プラスチックの各種リサイクル
- ◆産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業
- ◆その他

3-3 会員資格を有する主な団体

団体名	役職（代表取締役 福田隆）
（一社）日本鉄リサイクル工業会	
非鉄金属リサイクル全国連合会	リサイクル環境推進部会 部会長
東京非鉄金属商工協同組合	リサイクル環境推進部会 部会長
城南鋳物団地協同組合	理事
東京城南鋳物工業協同組合	
（一社）東京都産業廃棄物協会	中間処理委員会 破砕・圧縮分科会リーダー
電線リサイクル協議会	
品川リサイクル事業協同組合カムズ	理事

3-4 事業所ロケーション

天童支店
 〒994-0016
 山形県天童市東久野本3-2-32
 TEL：023-654-3358(代)
 FAX：023-653-4770
 金属製品販売サイト

東京事務所
 〒140-0013
 東京都品川区南大井6-17-17
 FINEビル2F
 TEL：03-5767-8860(代)
 FAX：03-5767-8870
 営業部門サイト
 事務部門の一部サイト

本社/本社工場
 〒143-0003
 東京都大田区京浜島2-20-4
 TEL：03-3790-1751(代)
 FAX：03-3790-1755
 本社機能と都内立地の条件
 を活かした小回りの利く
 リサイクルプラント

千葉工場
 〒293-0011
 千葉県富津市新富52-1
 TEL：0439-80-4545(代)
 FAX：0439-80-4646
 1千馬力のシュレッダーを
 導入した大型処理プラント

3-5 沿革

1902年(明治35年)	創業者福田勝西が東京市神田に伸銅品と非鉄金属の間屋を開業
1947年(昭和22年)	株式会社福田地銅店、東港金属株式会社を設立 製品の問屋業を株式会社福田地銅店が、地金の問屋業を東港金属株式会社が扱うことになる
1960年(昭和35年)	東京精錬株式会社を設立、銅合金の精錬及びインゴット製造を行う
1978年(昭和53年)	東京精錬株式会社を東京銅基合金工業株式会社と商号変更
1979年(昭和54年)	東京銅基合金工業株式会社及び東港金属株式会社の工場を京浜島に移転
1994年(平成6年)	電線リサイクル処理(ナゲット)プラントを導入、本社工場に設置 産業廃棄物収集運搬業の許可を取得 産業廃棄物中間処理業の許可を取得(切断・破碎)
1997年(平成9年)	精錬部門と営業部門が一体化し、東港金属株式会社が東京銅基合金株式会社を吸収合併する
2001年(平成13年)	家電リサイクル法に基づき指定引取場所となる
2002年(平成14年)	東京都とエコトライ協定を締結
2003年(平成15年)	家電リサイクル指定引取場所及びスクラップ取り扱い増を目的とした本社第二ヤードを開設
2006年(平成18年)	本社および京浜島工場で、環境マネジメントシステム(ISO14001)を認証取得
2007年(平成19年)	東京都港区芝に東京事務所を開設し、営業部門及び事務部門の一部を移転 千葉県富津市に千葉工場を開設
2008年(平成20年)	本社第三ヤードを開設
2009年(平成21年)	千葉工場が産業廃棄物中間処理業の許可取得 本社・本社工場、千葉工場、東京事務所で、情報セキュリティマネジメントシステム(ISO27001)を認証取得 千葉工場をISO14001認証範囲に拡大登録
2010年(平成22年)	東京都産廃エキスパート認定取得 本社事務所を新事務棟に移転 株式会社メタルポート(旧 福田地銅店)天童支店を譲り受け、東港金属株式会社天童支店として開設 本社工場に産廃選別ライン導入 家電リサイクル法の指定引取場所を閉鎖
2011年(平成23年)	東京都産廃エキスパート認定更新
2012年(平成24年)	埼玉県、福島県を除き、東京都を含む7都県で産業廃棄物収集運搬業の優良確認認定取得 東京都で産業廃棄物処分業の優良確認認定 本社第四ヤードを開設 創業110周年を迎える。 東京都品川区南大井に東京事業所移転
2013年(平成25年)	千葉工場内に保税蔵置場の許可取得 埼玉県で産業産廃物収集運搬業の優良確認認定
2014年(平成26年)	千葉工場のプレシュレッダー設置許可取得 創業110周年記念誌発行 東京都産廃エキスパート認定更新
2015年(平成27年)	千葉工場の施設としてプレシュレッダー追加及び保管施設変更の許可取得 千葉工場が自動車リサイクル法に基づく破碎業の許可を取得 本社工場にベトナムマット処理機設置
2016年(平成28年)	スクラップ船積輸出開始 本社第五ヤードを開設、圧縮油圧切断機の稼働開始
2017年(平成29年)	福島県で産業廃棄物収集運搬業の優良確認認定
2018年(平成30年)	東京都産廃エキスパート認定更新

3-6 許可・認定・認証

- ◆産業廃棄物収集運搬業
- ◆産業廃棄物処分業(中間処理)
- ◆自動車リサイクル法に基づく破碎業(千葉工場)
- ◆古物商
- ◆東京都 産廃エキスパート認定(中間処理及び収集運搬業)
- ◆第1種フロン類充填回収業者登録
- ◆保税蔵置場許可(千葉工場)

- ◆ISO14001認証
本社・本社工場、千葉工場、東京事務所
トライマテリアル株式会社 本社営業所
- ◆ISO27001認証
本社・本社工場、千葉工場、東京事務所

東港金属株式会社 及び トライマテリアル株式会社 (特別管理)産業廃棄物収集運搬業許可一覧

*当許可証は「産廃情報ネット」からご覧いただけます。
当社及びトライマテリアル株のホームページからもアクセスできます。

平成30年6月30日現在

取得都道府県	許可品目 (●は石綿含有物質を含む、◎は水銀使用製品廃棄物を含む、◎は石綿含有物質及び水銀使用製品廃棄物を含む)													優良産廃 処理業者 認定制度 による 優良認定						
	産業廃棄物											特別管理産業廃棄物								
	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	及び陶磁器くず	ガラスくず、 コンクリートくず		がれき類	廃酸 PH2.0以下	廃アルカリ PH12.5以上	廃石綿等	に 限 る 廃 油 類 及 び 軽 油 類	
産業 廃棄物	岩手県	東港金属					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
		トライマテリアル					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
	福島県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
		トライマテリアル					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
	茨城県	東港金属		◎			◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
		トライマテリアル	◎	◎			◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
	栃木県	東港金属		◎			◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
		トライマテリアル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
	群馬県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
		トライマテリアル					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎
	埼玉県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
		トライマテリアル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
	千葉県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
		トライマテリアル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
	東京都	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
		トライマテリアル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎
神奈川県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	
	トライマテリアル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	
長野県	東港金属	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎	
	トライマテリアル					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎	
静岡県	東港金属					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎	
	トライマテリアル					◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎			◎	
特別 管理 産業 廃棄物	千葉県														◎	◎	◎		◎	
	東京都														◎	◎	◎		◎	
	神奈川県														◎	◎	◎	◎	◎	

注)「廃棄物の処理および清掃に関する法律施行令」が改正され、産業廃棄物収集運搬業(積換えなし)及び特別管理産業廃棄物収集運搬業(積換えなし)の許可が合理化され、これまでは(特別管理)産業廃棄物の収集運搬については、積卸しを行う全ての都道府県又は政令市の許可を受けなければなりませんでしたが、平成23年4月1日より原則として、一の政令市を越えて収集運搬を行う場合は、都道府県の許可のみで当該都道府県内全域で収集運搬を行なうことができるようになりました。

東港金属株式会社 産業廃棄物処分業許可一覧

平成30年6月30日現在

取得都道府県	許可品目								優良産廃 処理業者 認定制度 による 優良認定
	廃 プラスチック類	紙 くず	木 くず	繊 維 くず	ゴ ム くず	金 属 くず	及 び 陶 磁 器 くず	ガ ラ ス くず、 コ ン ク リ ー ト くず	
東京都	◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎
千葉県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

*当許可証は「産廃情報ネット」から
ご覧いただけます。
当社のホームページからもアクセス
できます。

4 環境マネジメントシステム

4-1 環境方針

東港金属株式会社は、資源循環型社会の一翼を担う金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を通じて環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. 当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境パフォーマンス向上のために、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 当社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために法的要求事項、及び自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
3. 当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。
 - (1) 取扱商品の入荷量を拡大し、当社より排出する産業廃棄物の削減を図り、天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努めます。
 - (2) 千葉工場のシュレッダー業務の効率化を図り、処理量拡大を図ります。
 - (3) 各種車輛、重機等に使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇の抑制に努めます。
 - (4) 工場内のプラント設備、事務所の照明・空調等に使用する電力使用量の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇抑制に努めます。
 - (5) 新計量システム導入による伝票使用量の削減（ペーパーレス化）に努めます。

2017年7月1日
 東港金属株式会社
 代表取締役 福田 隆

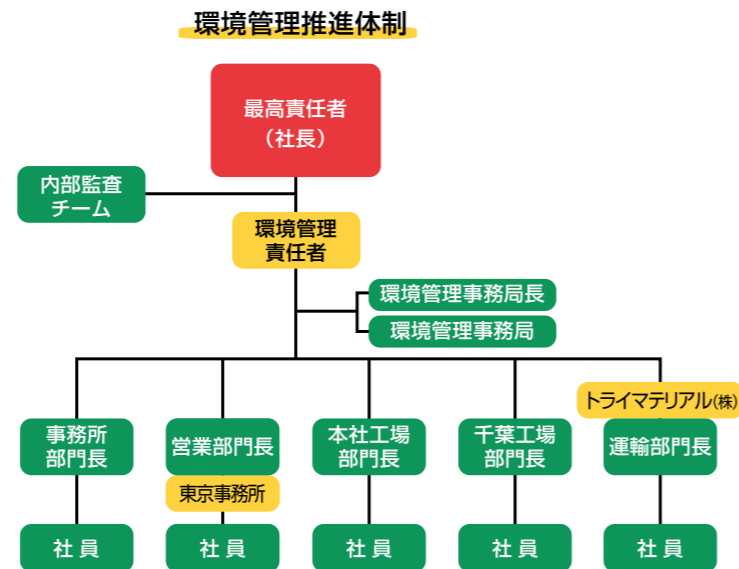
4-2 環境マネジメントシステム体制

当社は事業活動を進める中で、さまざまな過程段階で環境負荷が生じることを認識し、地球環境問題に対応し持続的発展を続けるために、自主的に環境保全に取り組み、環境方針を定めております。

環境方針は常に職場内に掲示し、社内に周知させることで、社員が労働災害や労働疾病防止をはじめとするさまざまな側面を意識し、環境負荷の少ないリサイクル業務に取り組めるよう指導しております。

2006年6月にISO14001を取得しました。

社長をトップとして、積極的に環境マネジメントシステムを構築して、環境方針に沿った管理体制の維持向上に努めています。



4-3 目標設定及び達成状況

負荷低減への取組み

当社は、事業活動、製品、及びサービスが環境に与える影響の中で、重点テーマである省エネ・省資源、効率向上の達成すべき目標を環境保全計画として設定しております。

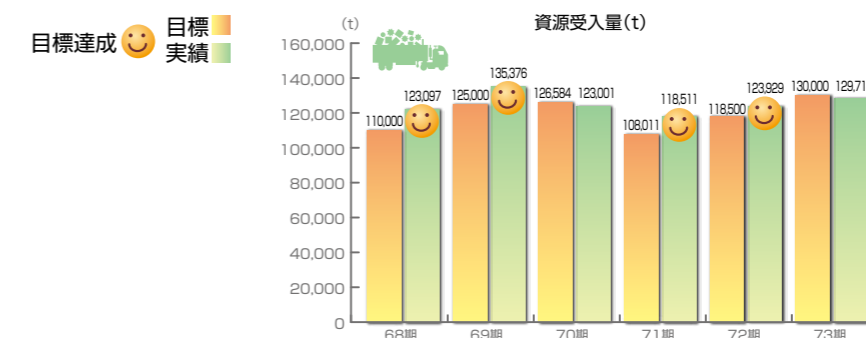
このページではISO14001の適用範囲（本社、本社工場、千葉工場、東京事務所及びトライマテリアル株式会社本社営業所）の73期環境目標・年度環境実行計画に基づくデータを掲載いたしました。

73期は資源受入量が目標の13万トン/年に対して129,718トン/年と0.2%の未達でした。

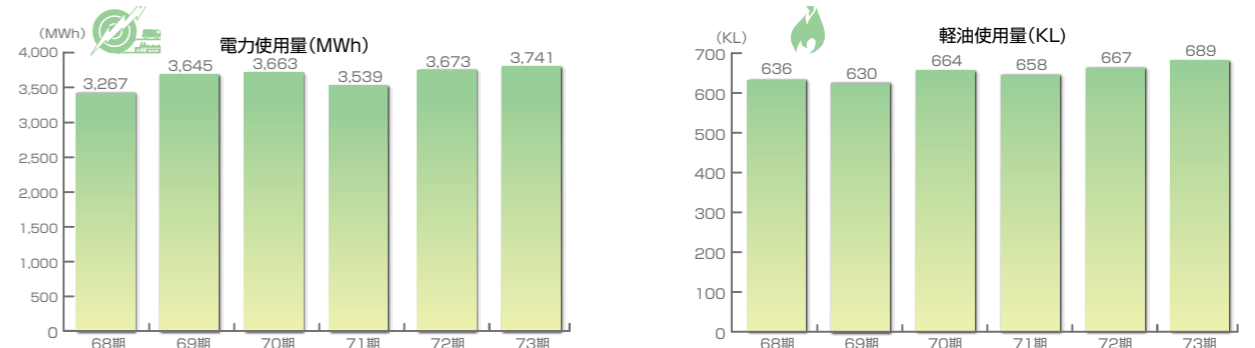
部門	推進項目	73期目標 施策	年間目標	結果・数値	達成度
全社	資源受入量の拡大	(1) 営業力の強化（人員補強） (2) 仕入先の拡大（顧客拡大）	130,000t/年の達成	129,718t/年	対目標値に0.2%の未達成
	新計量システムの導入によるペーパーレス化	(1) トラックスケールへの導入 (2) 経理処理システムへのデータ移行	期内に導入完了	期内に導入完了	達成
本社工場 トライマテリアル(株)	燃料使用量削減(運搬車輛)※1	(1) アイドリングストップの励行 (2) アクセルの吹かし過ぎ防止 (3) 急発進の防止 (4) 効率的な積み降ろし・運搬 (5) 車輛の定期点検・整備	1,175ℓ/千tの達成	725ℓ/千t	対目標値よりも更に38.3%の削減達成
	燃料使用量削減(重機)※1	(1) アイドリングストップの励行 (2) アクセルの吹かし過ぎ防止 (3) 効率的な積み降ろし・運搬 (4) 車輛の定期点検・整備	1,716ℓ/千tの達成	1,407ℓ/千t	対目標値よりも更に18.0%の削減達成
	電力使用量の削減※2	(1) 破砕機モーター稼働時のライン設備 トラブル減少→データー取り、改善推進 (2) 定期的メンテナンスの実施	10,314kWh/千tの達成	10,129kWh/千t	対目標値よりも更に9.1%の削減達成
千葉工場	電力使用量の削減※3	(1) 破砕機モーター稼働時のライン設備 トラブル減少→データー取り、改善推進 (2) 定期的メンテナンスの実施	50.0kWh/tの達成	45.5kWh/t	対目標値よりも更に9.0%の削減達成
	シュレッダー稼働率アップ	ライン整備による ①稼働率アップ ②シュレッダーの停止時間の削減	累計稼働率92.0%の達成	92.5%	対目標値よりも更に0.5ポイント改善

※1 燃料使用量原単位=燃料使用量(ℓ)/本社・製品入出荷量(千t)
 ※2 電力使用量原単位(本社)=電力使用量(Kwh)/本社・製品入出荷量(千t)
 ※3 電力使用量原単位(千葉工場)=電力使用量(Kwh)/シュレッダー投入量(t)

◆全社共通の推進項目の目標と実績



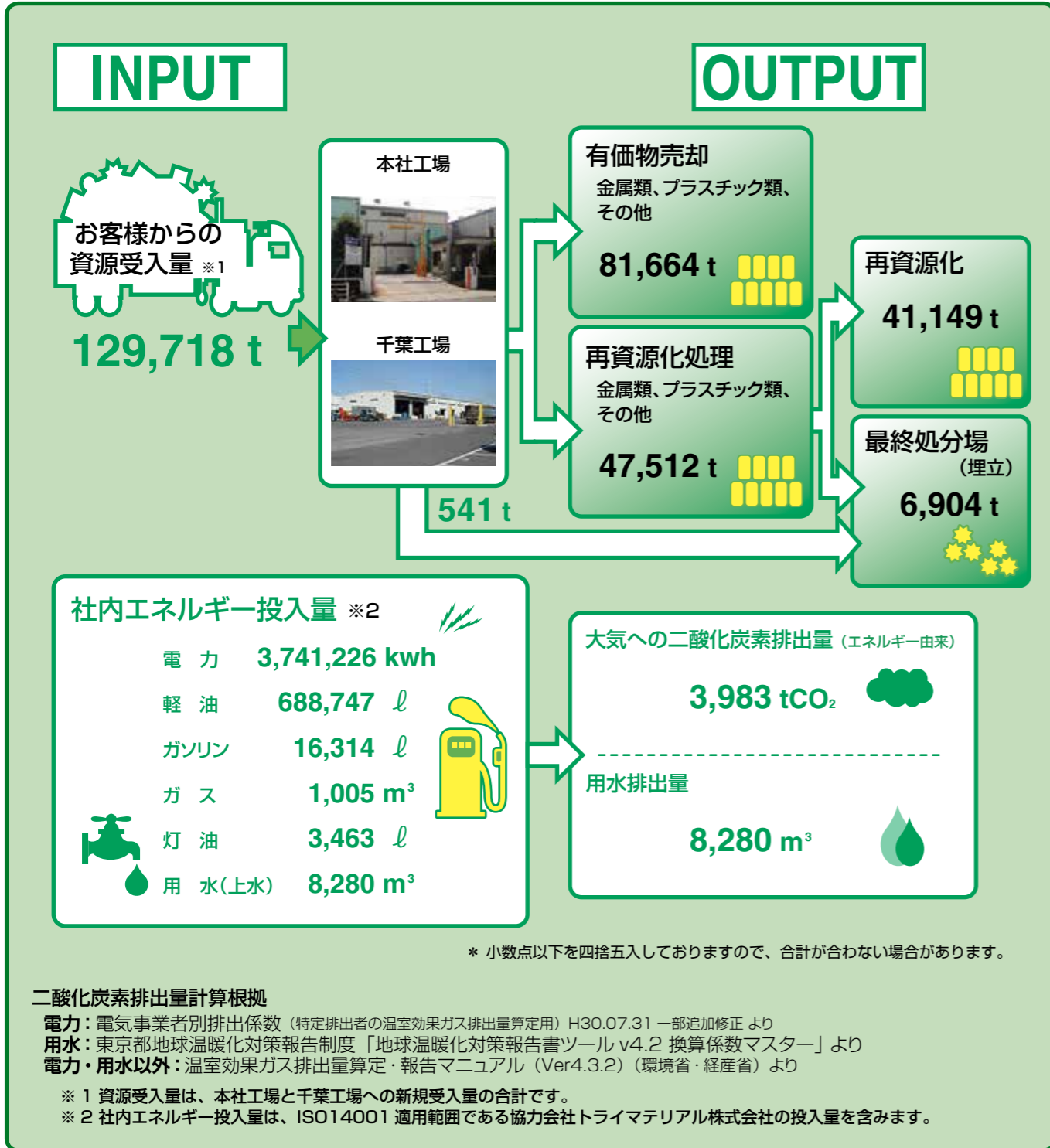
◆電力及び軽油使用量実績



5 事業活動と環境負荷

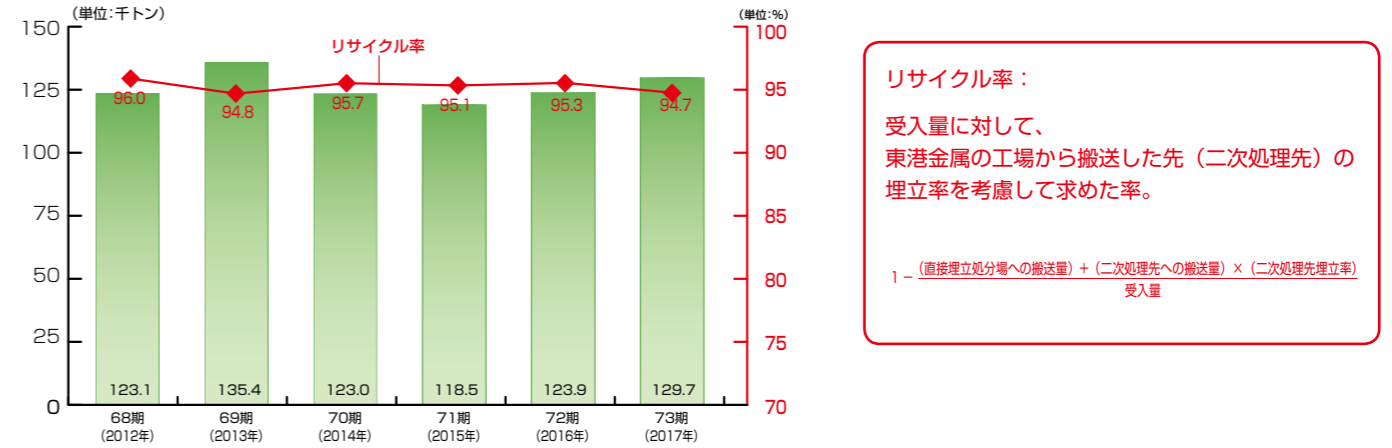
5-1 マテリアルバランス

当社事業においては、常に資源のリサイクル率や、再資源化の向上を図るための活動を行いますが、一方、活動における環境負荷として、電力や燃料などの各種エネルギーの消費に伴う温室効果ガスの排出があります。作業効率の向上や工程改善をすることで、環境影響を低減させる努力を続けて参ります。第73期（2017年7月～2018年6月）の主な環境負荷は以下の通りです。

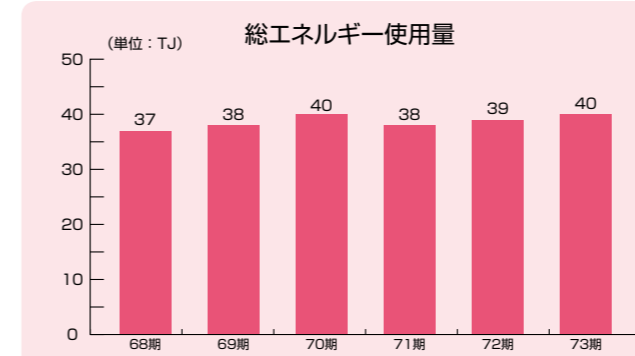


5-2 マテリアルバランスの詳細

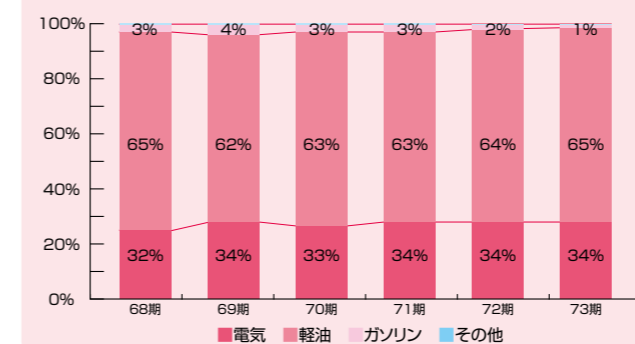
資源受入量とリサイクル率実績



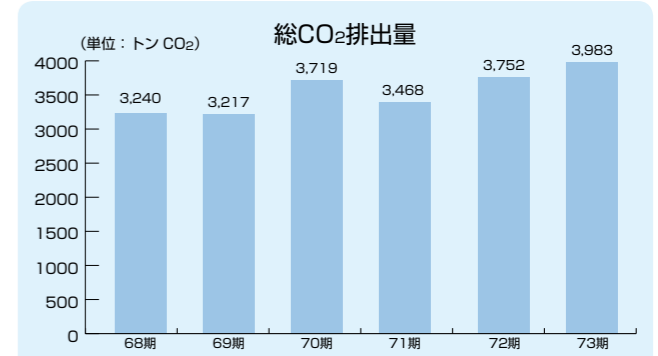
INPUT



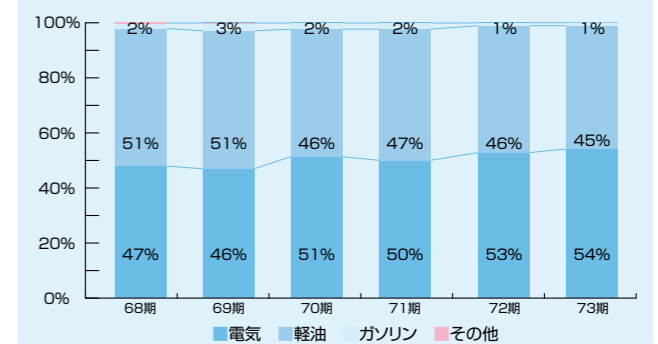
エネルギー種類別使用比率(用水を除く)



OUTPUT

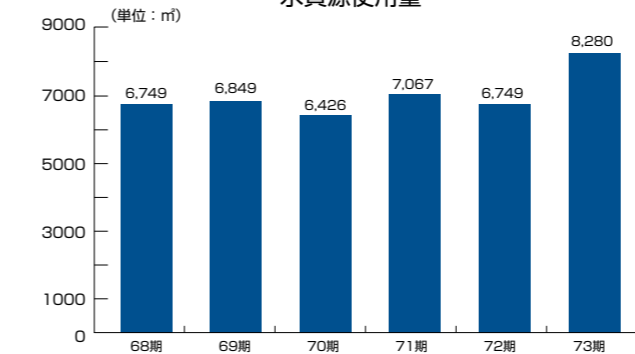


エネルギー種類別CO₂排出比率

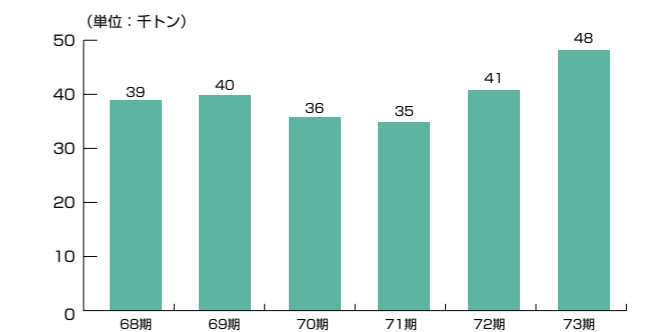


* 小数点以下を四捨五入しておりますので、合計が合わない場合があります。

水資源使用量



二次廃棄物排出量

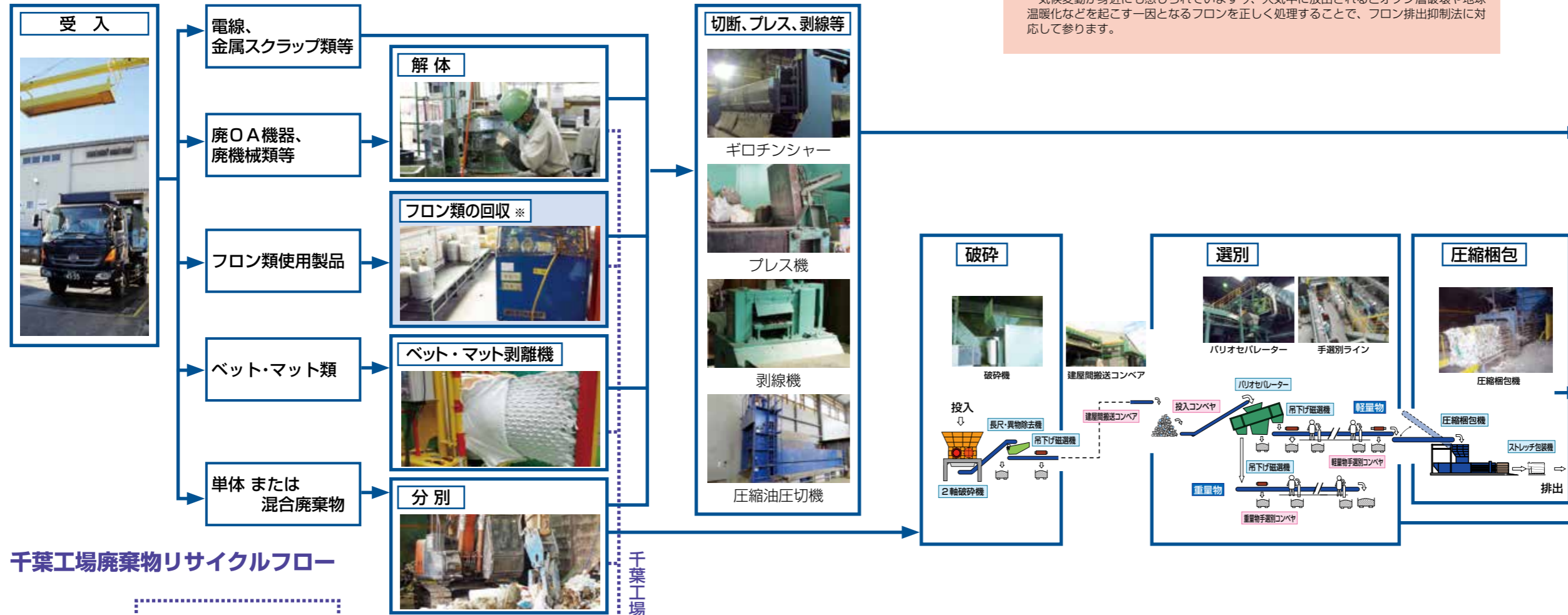


6 東港金属の責任と役割

6-1 事業所リサイクルフロー

本社工場廃棄物リサイクルフロー

本社工場では、多品目の取り扱いと徹底した選別で、出来る限り資源として循環することを目指しております。

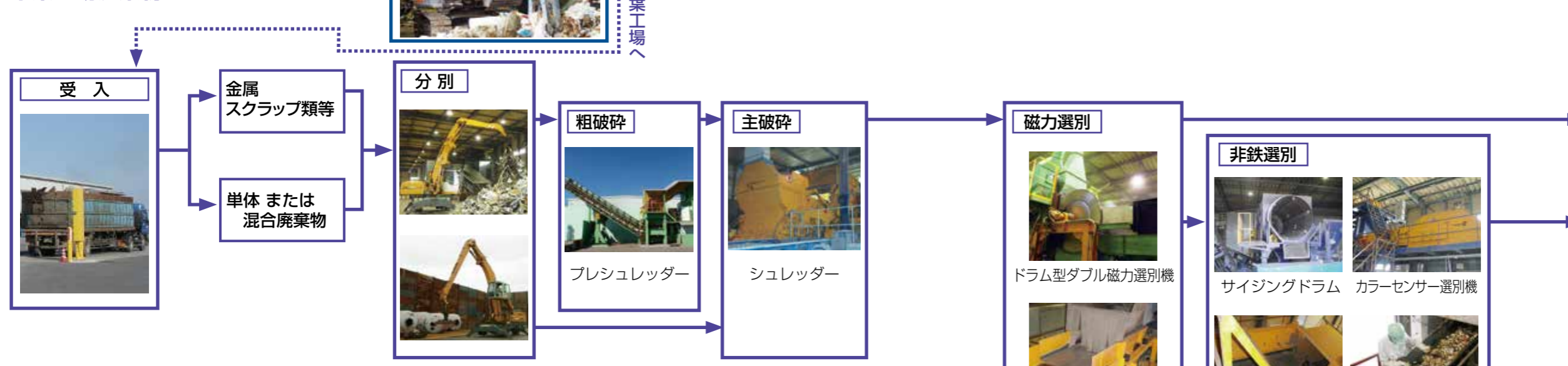


※フロン類の回収
 オゾン層の保護及び地球温暖化の防止のため、オゾン層を破壊したり、地球温暖化に深刻な影響をもたらしたりするフロン類の大気中への排出抑制やフロン類使用製品からの漏えい防止を目的に、フロン排出抑制法（改正フロン回収・破壊法）が制定されております。
 当社は、東京都の第一種フロン類充填回収業者として登録をし、搬入された業務用のエアコンや冷蔵庫の中に入っている冷媒用フロンを適正に回収し、破壊処理業者に引き渡しております。
 気候変動が身近にも感じられています。大気中に放出されるとオゾン層破壊や地球温暖化などを起こす一因となるフロンを正しく処理することで、フロン排出抑制法に対応して参ります。

主な出荷製品(売却及び適正処理先へ)
 マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクル向けの原料化を可能な限り促進し、リサイクル率の向上と適正処理に努めております。



千葉工場廃棄物リサイクルフロー



粉末や粒状物はフレコン梱包

船積出荷

2016年(平成28年)より、スクラップの船による出荷も始めました。



千葉工場のリサイクルフローでは、破碎と選別工程に最新鋭の設備を導入しております。主破碎には1千馬力のシュレッダーを導入し、シュレッダーで破碎した後は、磁選機・カラー選別機・手選別により、鉄・各非鉄・その他に選別し、後工程の圧縮梱包/適正処理の工程に移ります。

6-2 環境安全管理の取組み

環境測定結果

当社は、事業活動、製品及びサービスに付随して現れる汚染等の環境側面を常に認識して、周辺地域への環境に配慮しその予防に努めております。本社工場、千葉工場の業務に伴って発生する騒音・振動・悪臭・粉じん、及び構内から排出される雨水中の含有物質を自主的に測定し、皆様に開示しております。
今事業期の測定値は規制基準値（場合によっては自主基準値）内でした。今後もわずかな問題点にも処置対応を怠ることなく、地域周辺の環境保全に努め、環境保全水準の向上を図って参ります。
下記環境調査結果の概要版は当社ホームページにも公開いたしております。



第73期 東港金属株式会社 環境調査結果（騒音・振動・悪臭・粉じん・雨水）

調査実施機関：株式会社環境総合研究所【計量証明登録 濃度第592号、音第7号、振動1号】
調査期日 本社工場：平成30年5月15日（火）
千葉工場：平成30年5月16日（水）
調査方法：当該地域を規制する条例等の調査方法を採用（詳細は、弊社ホームページをご参照ください）
調査結果：適否の欄の記号は次のとおり。 ○：規制基準を満足 ×：規制基準を超過

1. 騒音レベル調査結果

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(騒音レベル)	適否	規制基準	騒音測定時の状況
本社工場	敷地境界(東)	9:25~9:35	66dB	○	70dB(参考)	工場内の稼働音
千葉工場	敷地境界(南)	9:15~9:25	61dB	○	70dB	工場内の稼働音

注)本社工場:工業専用地域であり規制基準は適用されないため、第4種区域の規制基準を参考に示した。
千葉工場:工業地域であるため、第4種区域の基準を当てはめた。

2. 振動レベル

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(振動レベル)	適否	規制基準	騒音測定時の状況
本社工場	敷地境界(東)	9:25~9:35	56dB	○	65dB(参考)	工場稼働
千葉工場	敷地境界(南)	9:15~9:25	48dB	○	65dB	工場稼働

注)本社工場:工業専用地域であり規制基準は適用されないため、第2種区域の規制基準を参考に示した。
千葉工場:当該地域は工業地域であるため、第2種区域の基準を当てはめた。

3. 悪臭

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(臭気指数)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	11:08	<10	○	13
	敷地境界(北)	12:20	<10		
千葉工場	敷地境界(北)	10:05	<10	○	—
	敷地境界(南)	10:25	<10		

注)本社工場:当該地域は工業専用地域であるため、第3種区域の基準値をあてはめた。
千葉工場:富津市は臭気物質規制であり、臭気指数規制値はまだ規定されていない。

4. 粉じん

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(総粉じん)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	8:30~12:30	0.16 mg/m ³	○	1.5 mg/m ³ (参考)
千葉工場	敷地境界(南)	8:15~12:15	0.21 mg/m ³	○	1.5 mg/m ³ (参考)

注)東京都、千葉県ともに施設から発生する粉じん濃度には規制値は存在しないため、参考までに茨城県条例で粉じん発生施設に適用される基準値と比較した。

5. 雨水排水

「下水の水質の検定方法等に関する省令(昭和37年厚・建令1)」に基づき、下記項目について調査を実施。
全ての項目で下水道基準値を満足しておりました。

調査項目:
カドミウム、全シアン、有機錳、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ホウ素、フッ素、全クロム、銅、亜鉛、フェノール、溶解性鉄、溶解性マンガン、BOD、SS、n-ヘキサン(鉱油)、n-ヘキサン(動植物油)、全窒素、全リン、水素イオン濃度(pH)、温度、酸素消費量、1,4-ジオキサン

環境関連法規制遵守の現状

環境の法規制で当社及びトライマテリアル株式会社に係るものは以下の通りです。
第73期で行政より指導・勧告を受けたものはありませんでした。

環境側面	法、条例、等	要求事項(当社該当主要項目のみ)	主な該当施設等	主な該当部署	必用資格	
自動車運行	道路交通法	①自動車免許、速度制限、積載制限	運搬車輛・自家用車	運輸部門・営業部門	大型・普通免許	
	NOx・PM法	①規制対応車種 ②PM減少装置の取り付け	—	運輸部門	—	
[業] *廃棄物の受入 *収集運搬及び処分業	廃棄物処理法 小電リサイクル法	①廃棄物の収集運搬及び処分業の許可 ②廃棄物の保管施設への掲示板の設置 ③委託基準の順守 ④マニフェストの使用及び返却等の管理 ⑤廃棄物処理責任者の設置 ⑥二社契約許可番号、事業の範囲、有効期限、処理能力、重量、単価等の記載 ⑦産廃最終処分業者の処分場視察 ⑧環境に負荷を与えない施設の維持管理 ⑨資源化を推進し、最終処分量の削減 ⑩地域住民との協調	業として被処理物の受け入れ	全体	収集運搬業 中間処理業 古物商	
			[事業者] 廃棄物の排出			業務全般からの排出
[事業者] 廃家電等電気製品の排出	特定家庭用機器廃棄物、パソコン	家電リサイクル法 改正リサイクル法	—	事務部門 生産部門	—	
トラックスケールの使用	トラックスケール	計量法	トラックスケール台貫計量誤差検定 1回/2年 検査	トラックスケール (20t・40t・50t)	生産部門	—
火災の発生	指定可燃物	消防法	指定可燃物貯蔵量調査	工場棟及び 工場内設備	生産部門	—
フロン類の回収	業務用空調機・ 業務用冷蔵庫からのフロン回収	フロン排出抑制法	東京都知事による登録 適正回収、行程管理制度、引取証明書の交付	フロン回収設備等	生産部門 営業部門	第一種フロン類 回収充填業者 登録
材料およびエネルギーの使用を物品の購入時に考慮	物品の購入	グリーン購入法	グリーン調達を推進し、環境に与える負荷を軽減する	事務所	事務部門	—

環境会計

当社としての環境会計の算出方法を模索しておりますが、平成12年3月の環境庁「環境会計システムの確立に向けて(2000年3月)」及びそれ以降も検討中とされております通り、当社の本業が環境活動そのものであるため、環境保全コストの把握が困難であり、今後の課題とさせていただきます。

<参考>

「本業として環境ビジネス(公害防止装置の製造、環境コンサルタント、廃棄物処理・リサイクル事業等)に取り組む場合の環境保全コストの把握(測定)に関しては、困難な問題が多く残されていますが、原則として、本業として取り組む環境ビジネスに関するコストは環境保全コストには含まれないと考えられます。ただし、企業等において独自の算出方法を考案されている場合は、その方法を明示した上で、把握(測定)公表することを妨げるものではありません。この問題については今後の課題とさせていただきます。」

平成12年3月 環境庁 環境会計システムの確立に関する検討会 「環境会計システムの確立に向けて(2000年3月)」より抜粋

グリーン購入の促進

当社では社内の物品調達について、共有使用できるものやリユースできるものの再使用をすすめておりますが、購入に際しては、グリーン購入の考えに則した環境負荷低減に資する製品を積極的に購入し、使用することに努めております。

バリューチェーンにおける環境配慮等の取り組み方針

当社の事業活動におけるバリューチェーンに係わる全ての環境に対する影響を把握し、その中で環境負荷の大きなものを環境方針の重点テーマとして改善を図っております。



6-3 環境に係わる教育・コミュニケーション

環境教育

入社時には毎日の生活に関する社内安全・衛生知識の教育の他に、事業活動に付随して生じる環境影響と地球環境維持の大切さを教え、継続的に改善していくための環境マネジメントシステム (ISO14001) について、環境方針と環境管理体制を教育し、当社の組織の中で、社員全体の環境保全水準が向上するように定期的な指導を続けています。



安全運転講習会

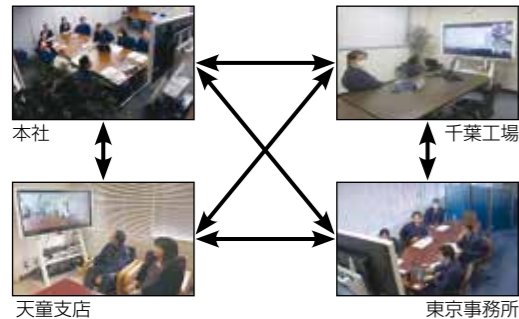
当社は、グループ会社トライマテリアル(株)と共に、ドライバーがプロとして責任を持って仕事に従事するための年間教育プログラムを用意し、安全運転を第一に、エコドライブや道交法の確認、周囲への気配り、毎日の健康管理等についての、定期的に講習会を開催し、社員の意識アップを図っています。「安全・確実・迅速」をモットーとしていますが、お客様と直接顔を合わせる会社の顔としての大切なマナーも身につけてもらうために、「ベストドライバー表彰制度」を設けて、月々の作業姿勢やマナーなどの担当職務に優れたメンバーを上司が推薦し、月間 MVP として表彰しております。またトライマテリアル(株)は、所属する東京都トラック協会主催の交通安全や交通公害についての講習会へも参加を奨励しています。



年	月	項目	年	月	項目
平成29年	7月	貨物の正しい積載方法	平成30年	1月	交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法
					健康管理の重要性
	8月	過積載の危険性		2月	安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法
	9月	危険物を運搬する場合に留意する事項		3月	トラックの運行の安全を確保するために遵守すべき基本的事項
	10月	適切な運行の経路及び当該経路における道路及び交通の状況		4月	危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法
	11月	危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法		5月	危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法
	12月	危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法		6月	危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法

安全教育年間計画表 (抜粋)

テレビ会議システムの導入



社内工場間の移動時間の削減、ペーパーレス化を進めたいという狙いのもと、インタラクティブホワイトボード（電子白板）を使ったテレビ会議システムを全ての事業所に導入しました。事業所間での個別会議は勿論、全体会議も場所を問わず開催できるので、不要な出張費の削減ができ、正確で迅速な意思決定がその場で参加者全員に伝わるなどのメリットに加え、相手の顔を見ながら会話することで、社員の一体感も強くなるという目に見えない付加価値を得られ、更に移動に伴う温室効果ガス（CO2）排出も抑えられるという経済効果も生み出しています。

社員の主な資格一覧

毎日の安全作業のため、又業務効率を Up させるために、重機等機械設備の知識や作業技能や、担当業務に必要な資格等を修得するよう奨励しています。

2018年10月31日現在

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
フォークリフト運転技能者	59	産業廃棄物処理業者講習会	5	ISO 9001 内部監査員	1
中型自動車運転免許	59	移動式クレーン運転士 5t 未満	3	破碎・リサイクル施設技術管理士	1
車両系建設機械(整地・運搬・積み込み及び掘削用)運転者	48	移動式クレーン運転士	3	古物商許可	1
玉掛作業員	42	危険物取扱者	3	産業廃棄物の許可申請に関する講習会 処分課程(新規/更新)	1
車両系建設機械(解体)運転者	31	防火管理者	3	産業又は特種産業廃棄物の許可申請に関する講習会 処分課程(更新)	1
小型移動式クレーン運転士	24	産業廃棄物の許可申請に関する講習会 収集運搬課程(新規/更新)	3	整備管理者	1
ガス溶接技能者	24	第二種電気工事士	3	運行管理者	1
アーク溶接作業員	16	クレーンデリック(クレーン限定)	2	大型自動二輪車免許	1
大型自動車免許	14	冷媒回収技能者(登録講習会)	2	2級土木施工管理技士	1
クレーン運転士 5t 未満	12	安全管理者	2	足場の組立て等作業主任者	1
高所作業車運転者	12	衛生管理者	2	特定化学物質作業主任者	1
職長教育	9	産業又は特種産業廃棄物の許可申請に関する講習会 収集運搬課程(更新)	2	救命技能認定	1
はい作業主任者	7	大型自動車二種免許	2	陸災防安全衛生教育講師	1
移動式クレーン運転士	6	地山の掘削及び土止め支保工作業主任者	2	ダイオキシン類特別教育インストラクター	1
安全衛生推進者	6	有機溶剤作業主任者	2	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
けん引免許	5	酸素欠乏危険作業主任者	2	PCB 廃棄物の収集運搬業従事者(講習)	1
大型特殊免許	5	ISO 14001 内部監査員	2	公害防止管理者(大気一種)	1
安全衛生責任者	5	ISO 27001 内部監査員	2	公害防止管理者(水質一種)	1

羅針盤の発行

東港NEWS
羅針盤



お客様及び社員に向けて、環境関連の参考情報として「羅針盤」を発行しております。

産業廃棄物処理業界の相場状況及び改正された法律の内容紹介などの参考情報や、当社のトピックスを羅針盤というニュース紙として毎月発行しています。

今年11月で103号を発行しました。今までのバックナンバーは東港金属のホームページからご覧いただけます。

<https://www.tokometal.co.jp/rashinban/index.html>

号	発行日	トピックスタイトル	号	発行日	トピックスタイトル
70	平成28年1月1日	産廃(及び特管)のマニフェスト管理に関する期間	88	7月1日	日常使われている大事な金属製品(硬貨の孔について)
71	2月1日	鉄スクラップの価格推移	89	8月1日	中国における金属スクラップ輸入禁止発表について
72	3月1日	PCB特措法の改正案	90	9月1日	水銀廃棄物の適正な管理のために
73	4月1日	中国における使用済み自動車リサイクル業界の流れ	91	10月1日	自転車活用推進法
74	5月1日	クールビズについて	92	11月1日	「水銀使用製品産業廃棄物」排出時のマニフェスト記載方法
75	6月1日	「黄砂」について	93	12月1日	産業廃棄物処理業界 景況動向調査結果
76	7月1日	「産廃エキスパート・産廃プロフェッショナル認定制度」について	94	1月1日	当社の産廃エキスパート認定が更新されます
77	8月1日	刀剣の産地「備前」と「鉄」のお話し	95	2月1日	産業廃棄物の不法投棄状況について(環境省発表 H28年度)
78	9月1日	「SOLAS条約」国際海上輸送コンテナの総重量の確定方法の制度化	96	3月1日	****
79	10月1日	廃プラスチック・リサイクルの現状(その1)	97	4月1日	産業廃棄物の排出事業者の責任とは
80	11月1日	廃プラスチック・リサイクルの現状(その2)	98	5月1日	シェアサイクルと課題
81	12月1日	産業廃棄物税の概要	99	6月1日	平成30年版環境白書(環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書)
82	平成29年1月1日	産業廃棄物処理業界 景況動向調査結果	100	7月1日	(部下育成時の一助として)心理学者マズローの欲求5段階説
83	2月1日	LMEについて	101	8月1日	廃棄物データシート
84	3月1日	「汚泥」戸「ばいじん」は中間処理後産業廃棄物か?	102	9月1日	産業廃棄物処理業界 景況動向調査結果
85	4月1日	改正個人情報保護法の概要	103	10月1日	ポリ塩化ビフェニル(PCB)使用製品及びPCB廃棄物の処理完了期限が迫っております
86	5月1日	日常使われている大事な金属製品			
87	6月1日	産業処理業界の許可証について(許可番号と許可期限の見方)			



月間MVP表彰制度

ヤードでの日々のメンテナンスと安定した業務に努めた方々をベストヤードマン※として、また安全・迅速・丁寧な運転、効率を考えた運行に努めた次の方々をベストドライバー※として、毎月表彰する制度です。

73期は次の方々(複数月の受賞者もおります)が表彰されました。

また、トライマテリアル株式会社は一般社団法人東京都トラック協会から、平成29年度セーフティードライバーコンテストで表彰されました。



ベストヤードマン



ベストドライバー

※平成30年4月からは「マン オブ ザ マンス」のヤード部門及びドライバー部門として表彰しております。

6-4 地域との共生

事業所周辺の美化運動



当社の本社は東京都大田区の東部に位置する京浜島工業団地に有ります。地域北部には大井ふ頭、北東部には城南島、南東部から南部には羽田空港、西部は昭和島がありますが、周りを京浜運河が流れています。会社の前は羽田空港のB滑走路に面した海岸線になっており、離着陸する飛行機を眺めるには最適の「つばさ公園」です。「つばさ公園」北端の芝生広場はバーベキュー可能エリアですので、この地域の環境保全を維持し、見学に来られるお客様や搬入車が気持ちよく来社していただけるよう、毎朝周辺道路及び搬入通路の美化清掃を行っています。

城南鋳物団地協同組合の一員として

首都圏で唯一の鉄及び非鉄金属の総合団地である城南鋳物団地協同組合は、1978年大田区京浜島工業団地に20社により結成されました。40年後の現在当初の鉄、非鉄合金鋳物関連企業は半数となりましたが、ステンレス加工、板金、産廃中間処理、建設業等、幅広い業種で形成されています。異業種の集まりとなった団地組合は、和を以て貴しの精神で日夜産業界に貢献しています。当社は本組合の発足当時の組合員として地域発展に努めています。



城南鋳物団地協同組合事務所



京浜島全景と東港金属及び城南鋳物団地協同組合事務所付近 (google 航空写真より)

東京都産業廃棄物協会の一員として

一般社団法人東京都産業廃棄物協会（東産協）は、東京都、国、関係団体と密接な連携を保ちながら、産業廃棄物の適正処理の推進及び資源循環等を目的として調査研究、普及、研修並びに指導等の事業を行うことにより、産業の健全な発展、生活環境の保全を図ることを目的としています。調査研究の成果をもとに、国や東京都などに制度改正などの提案・要望を行い、広く一般に対し啓発を行っています。また、産業廃棄物によって生じた環境問題について、東京都の要望に基づいて対応したり、次世代を担う子供たちに向けた環境学習活動の実施、公益寄付など社会的・公益的役割を果たしています。当社も一会員として事業の推進に努めており、現在は、中間処理委員会破砕・圧縮分科会リーダーとして、また、協会女性部（e-Lady21）委員として所属し、循環型社会形成への役割を担っています。

当社は自転車競技を応援しています
公益財団法人日本自転車競技連盟(JCF)のオフィシャルスポンサーです。



東港金属は環境関連企業として、公益財団法人日本自転車競技連盟（JCF）を通して自転車競技に参加する選手の皆様に応援しております。

自転車はジョギングと同じで人力を動力源としていることから、省エネルギーで無公害の“環境に優しい乗り物で、地球環境の浄化促進に一層重要な役割を担っていくことと期待されています。

東港金属は、人々が楽しみながら、動力による消費エネルギーを少しでも遅らせることが出来る自転車競技を評価し、日本自転車競技連盟を応援することで、地球環境を守る一助としております。戦うフィールドによってまったく違った魅力を秘め、トラック競技場で行われるトラック・レース、一般道を走るロード・レースなど、参加選手自身のエネルギーだけでスピードを競い合うもので、そのスピード感が観戦者の心を躍らせます。毎年、日本ナショナルチームのユニホームには「東港金属」のロゴも使われています。



日本選手チームと福田社長（前列向って左）
(2018JapanCup)

BICYCLE CITY EXPO 2018 ー自転車まちづくり博ーへの出展

自転車を利活用したまちづくり推進を応援し、昨年初めて開催されたBICYCLE CITY EXPO が、場所を東京ドームシティ・プリズムホールに変えて2018年5月29日30日に開催されました。

東港金属は昨年と同じ「自転車ワールドを陰で支える総合原料リサイクラー」をテーマに、放置自転車再利用のためのリサイクルの取組みを出展致しました。

自転車活用推進法が施行されたことに伴う今回の「自転車まちづくり博」では、自転車と健康についてのディスカッションや、自転車走行路の整備・拡充、一方では、交通事故や転倒のリスクを防ぐためには交通マナーの厳守などの提案もありました。高齢化の進む今、町が整備され、「公共交通の機能補完」としてシェアサイクルを活用することで健康寿命を延ばしていく都市が増えることが出来れば、温暖化防止への貢献へつながることも期待されます。既に全国では、多くの自治体が自転車施策の導入・検討を行っており様々な運用が行われています。

当社は、スピードを競う自転車競技を応援するだけでなく、便利に使用していた自転車が使用後放置されゴミとして処理されるのを行政から引き受けて、資源化させ、循環させることへのお手伝いをしています。



展示会場（当社のブース）風景

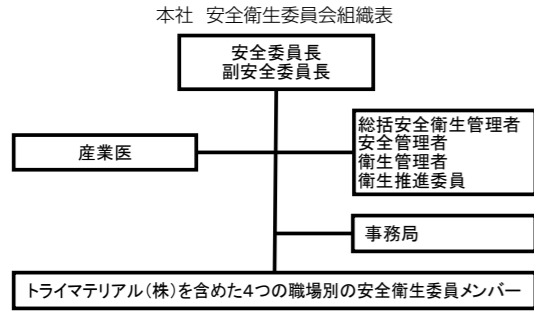


展示で使用した写真はJCFからご提供いただきました。

6-5 事業所の安全衛生

社員の安全・健康のために (安全衛生委員会及び安全衛生環境会議)

当社及び協力会社トライマテリアル株式会社は、安全は全てに優先すると心得て、労働災害を防止し、社員が安全・健康に仕事を遂行できる職場環境を整えるため、事業所別の安全衛生委員会を組織し、日々意識付けをしています。



定期的に行っている安全衛生環境会議には産業医にも参加をお願いし、生活の基本となる労働時間短縮を含めた職場環境の改善、メンタルなどの健康問題など、社員の健康保持に気を配ったテーマを意見交換しあい、確認をし、具体的なアクションにつなげています。また、毎朝始業時には社員全員で安全唱和をすることで身を引き締めております。会議はTV会議システムを使って全事業所全社員が参加をしております。



東京事務所からの参加

防災訓練(緊急速報に慌てないために)

本社工場は羽田空港の隣、千葉工場は大手製鉄所や東京電力と近接しており、いずれも港湾に面しているため、各地の大震災時の経験を忘れず、不意打ちを想定外と言わないように、防火、防災訓練(消火・避難)を毎月実施しております。昼間、夜間とも搬入車両の出入りも多く、また工場見学のお客様も増えていることから、不意の災害時に適切な避難誘導が出来るように、数多く訓練する中で災害・防災の正しい知識と技術を習得し、対応できるよう努めています。



安否確認システムの訓練

災害時には全社員がWEBを利用した二つのシステムにアクセスし、お客様を含めて各持場での安否を報告できるよう、「安否確認システムの訓練」を度々実施し、会社がすぐに安全対応が出来るようなシステムで非常時に備えております。



6-6 情報セキュリティマネジメントシステム

情報セキュリティマネジメント体制

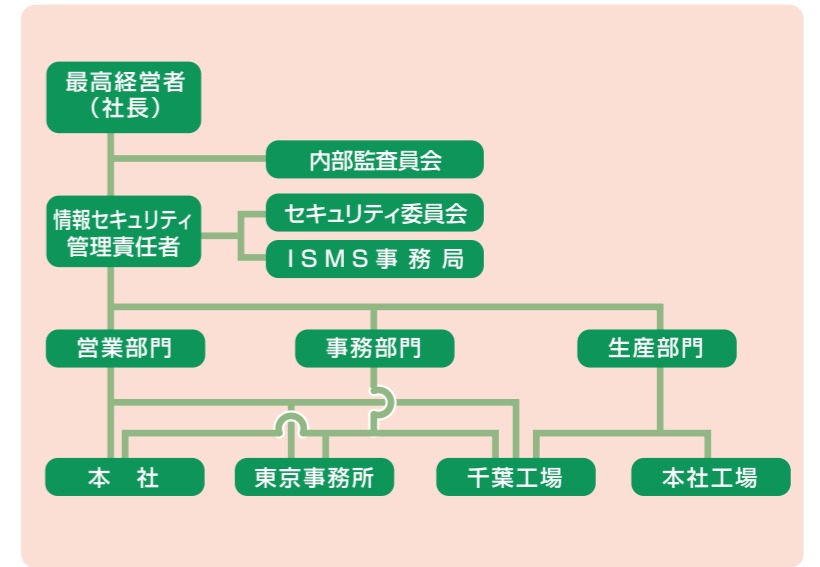
ネット社会の今、不正アクセスやコンピュータウイルスによる被害、僅かなミスによる情報漏えいが大きな被害に発展する危険性を抱えている状況下で、情報セキュリティの必要性がますます重要となっております。

当社は、2009年4月に「情報セキュリティマネジメントシステム」ISO27001の認証取得をいたしております。

当社は「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」や「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(マイナンバー法)」に対応し、顧客情報・顧客資産・従業員個人情報保護の責務を果たし、お客様の利益と会社全体の情報セキュリティを推進することが重要な顧客サービスであると考え、情報セキュリティマネジメント体制を整え

定期的に当社が保有する全ての情報資産をリスク評価し、そのリスクに応じて対策を実行しております。

お客様がかけがいのないパートナーとして、安心して当社をご利用いただけるよう、マネジメントシステムの構築、維持のPlan - Do - Check - Actのプロセスを通じて、入社時研修をはじめ、定期的に社員一人ひとりの意識の浸透を図り、推進してまいります。



情報セキュリティ基本方針

1. 目的と活動の原則

東港金属株式会社は、金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を進めていく上で、顧客情報や処理を受託した機器の記録部の中に含まれている情報等の重要情報を保有している。一方、事業の拡大に伴う本社事務所とヤード、他事業所、事務所等との情報伝達経路の多様化により、情報の漏洩、改ざん、センター機器や情報伝達経路の不具合による事業活動の遅滞や停止等の潜在的なリスクを有している。情報セキュリティマネジメントシステム(以下ISMS)規格に準拠するISMSの構築、維持のPDCAプロセスを通じて、これらのリスクに対応する仕組みを確立することが当社の重要な顧客サービスとなることを認識し、従業員が一丸となりISMSを実施し、顧客及び当社の継続的な事業発展のために、ここに情報セキュリティ基本方針を制定する。

2. 法令・規程・規則

顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守、管理する。

3. ISMS 組織体制の確立

事業の変化とそれに伴うリスクの変化に対して適切に対処するために、情報セキュリティ管理責任者を任命し、その下にセキュリティ委員会とISMS事務局を設ける。また、ISMSのPDCAプロセスが適切に機能していることを評価する内部監査組織を設置する。情報セキュリティ管理責任者とISMS事務局は、当社のISMS全般に亘る管理、運営を行う。

4. リスクへの対応

顧客情報と会計販売情報の機密性を最重要視する。これら情報の漏洩は当社の信頼性を著しく損ない、悪用されれば当社の事業継続に重大な影響を及ぼすと考えられる。また、これら情報が集積しているサーバとその伝達経路の不具合は、業務遂行上の重大なリスクであり、完全性と可用性を考慮する。なお、リスクマネジメントは、客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとして、継続的に見直しを行なえるものとする。

2017年7月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆

7 グループ会社

7-1 トライマテリアル株式会社



トライマテリアル株式会社は、東港金属株式会社がお客様からお引き受けする貨物を「安全・確実・迅速」に輸送するという役割を請け負う産業廃棄物収集運搬の協力会社です。平成18年に創業し、今年は12年目となりました。改めて物流業務の大切さを感じ、身を引き締めております。

【環境方針】

トライマテリアル株式会社は、東港金属株式会社の協力会社として同社の環境方針に同調し、資源循環型社会の一翼を担う産業廃棄物の収集運搬業者として、環境負荷の少ない事業活動に取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. トライマテリアル株式会社の事業活動及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
 2. トライマテリアル株式会社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために法的要求事項、及び自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
 3. トライマテリアル株式会社が行う事業活動及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。
- ◇ 各種収集運搬用に供する車両で使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇を抑制することに努めます。

2017年7月1日
 トライマテリアル株式会社
 代表取締役 青木 秀夫

社員の資格一覧

2018年10月31日現在

資格区分	人数
大型自動車免許	19
フォークリフト運転技能者	18
玉掛作業	12
車両系建設機械（整地・運搬・積み込み及び掘削用）運転者	12
小型移動式クレーン運転士	12
車両系建設機械（解体）運転者	9
けん引免許	8
ガス溶接技能者	6
大型自動二輪車免許	4
床上操作式クレーン運転士	3
アーク溶接作業	3
整備管理者	3
大型特殊免許	3
高所作業車運転者	2
安全衛生推進者	2
運行管理者	2
救命技能認定	2
職長教育	2
危険物取扱者	1
はい作業主任者	1
大型自動車二種免許	1
足場の組立て等作業主任者	1
安全衛生責任者	1
交通労働災害防止担当管理者	1

■会社概要

社名 トライマテリアル株式会社
<http://www.trimaterial.co.jp/>
 代表者 代表取締役 青木秀夫
 設立 2006年(平成18年)1月
 資本金 1,000万円
 従業員数 19名(2018年10月1日現在)
 年商 約2.4億円(2017年12月期)
 本社・本社営業所 東京都大田区京浜島2-19-10
 東京事務所 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
 主な取引先 東港金属株式会社

■沿革

- 2006年(平成18年)
 1月 東京都中央区に一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬業及び特定労働者派遣事業を目的として設立
 東京都大田区京浜島に東京営業所を設立
- 3月 特定労働者派遣事業許可
 6月 一般貨物自動車運送事業許可
 7月 各地の産業廃棄物収集運搬業許可取得開始
- 2008年(平成20年)
 3月 東京都港区に本社移転
- 2009年(平成21年)
 7月 ISO14001 本社営業所で認証取得
 (東港金属株式会社と合同認証)
- 2010年(平成22年)
 2月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃プロフェッショナル」の認定取得
- 2011年(平成23年)
 12月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃エキスパート」の認定取得
- 2012年(平成24年)
 3月 東京都及び千葉県で特別管理産業廃棄物収集運搬の優良認定取得
 11月 東京都大田区に本社移転
- 2014年(平成26年)
 12月 東京都の優良性基準適合認定制度「産廃エキスパート」認定更新
- 2015年(平成27年)
 7月~11月 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県で産業廃棄物収集運搬業の優良認定を取得
- 2016年(平成28年)
 12月 岩手で産業廃棄物収集運搬業の優良認定を取得
- 2018年(平成30年)
 4月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃エキスパート」認定更新
 静岡県で産業廃棄物収集運搬業の優良認定取得

7-2 トライメタルズ株式会社

金属スクラップの資源リサイクルを高効率で実現

非鉄金属製品及びスクラップの販売及び輸出入を目的として設立。
 お客様から排出される金属スクラップの収集・運搬及び選別・加工・保管を協力会社（東港グループ）並びに委託会社により行い、輸出及び国内販売に関して、高品質でコストパフォーマンスの良い、資源リサイクルプロセスを実現しております。
 また、2011年10月に品質マネジメントシステム（ISO-9001）の認証を受けております。

■会社概要

社名 トライメタルズ株式会社
 代表者 代表取締役社長 福田 隆
 設立 2007年(平成19年)3月
 資本金 600万円
 従業員数 4名(2018年10月1日)
 (東港金属株式会社との兼務を含む)
 年商 5.8億円(平成30年6月期)
 本社 東京都大田区京浜島2-20-4
 東京事務所 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
 主な取引先 東港金属株式会社
<http://www.trimetals.co.jp/>

7-3 トライシクル株式会社

テクノロジー×イノベーションで理想の循環型社会を創る -目指すはサーキュラー・エコノミー-

トライシクルの目指す経済社会モデルは、サーキュラー・エコノミーです。
 サーキュラー・エコノミーとは、従来言われてきた「循環型社会」よりも、より広角的で革新的な循環型経済モデルのことです。

根底にある考えは、無駄を減らすこと。

そしてその無駄をリサイクルしていくことで新たな価値へと変化させ“負”から“富”へと変えていくことが、このサーキュラー・エコノミーの価値でもあります。
 リサイクルやリユースなどを通じて、製品ライフサイクルの“Close the Loop”（ループを閉じる）を実現するサーキュラー・エコノミーですが、わが国では江戸時代、これに近いモデルをすでに構築していたと言われていました。
 傘は破れば貼り替え、草履は手直しし、それでも使えなくなれば堆肥（たいひ）としてリサイクルしていました。
 しかし戦後の高度経済成長により、大量生産・大量消費・大量廃棄に変化したことにより、現在では「2030年には、地球2個分以上の資源がないと現在の消費は維持できない」(WWF Living Planet Report)、「2050年には、世界の廃棄物発生量が2010年の2倍以上となる」(環境省平成28年版環境・循環型社会・生物多様性白書)と言われるほどの資源不足と廃棄問題に直面しているのです。
 トライシクルでは、未来の地球・そこに住む未来の子供たちのために、サーキュラー・エコノミーの実現に向けて挑戦をしていきます。

品質方針

当社は、経営理念に基づき、お客様の期待する製品を仕入・販売する事を最優先する
 このため、以下の品質方針を定める
 本方針を通じて要求事項への適合と品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善を全社員が一致協力して推進する

1. 品質マネジメントシステムを構築し運用する
2. お客様のニーズと期待に応える
3. 求められる製品及びサービスの品質を満足させる
4. 品質クレームとミスの発生を低減する
5. 関連する法令・規制を尊重する
6. 品質目標を設定し、その達成に向けて努める
7. 本方針及び品質目標は、定期的にレビューされる

品質目標

- ・ミスのない輸出業務の実施
- ・高い品質と高いコストパフォーマンスを達成する
- ・顧客満足度の向上のため、顧客重視の業務を実施

2017年7月1日
 トライメタルズ株式会社
 代表取締役 福田 隆

■会社概要

社名 トライシクル株式会社
 代表者 代表取締役社長 福田 隆
 設立 2018年(平成30年)5月
 資本金 1000万円
 所在地 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル4F
 関連企業 東港金属株式会社
 トライマテリアル株式会社
 トライメタルズ株式会社
<http://tricycle.id/>

■事業概要

インターネットサービスの開発、運営、販売
 ソフトウェア開発、販売企業間での、リユース、リサイクル、廃棄までの取引を行うプラットフォームサービスを提供します

- ・インターネットサービスの開発と販売
- ・インターネットサイトの運営
- ・ソフト開発と販売
- ・中古品の販売、加工
- ・動画配信、メールマガジンの配信
- ・リサイクル製品の販売
- ・リサイクル設備機器の開発と販売
- ・不動産賃貸
- ・上記各号に付随する一切の事業

8 東港金属株式会社 アーカイブ (3代目社長 福田勝年の時代)

東港金属株式会社は1902年(明治35年)故銅店・福田勝西商店の創業に始まり、今日までリサイクラーとしての長い歴史を歩んでまいりました。ここに、先達の歩んできた道を環境報告書の紙面で紹介させていただき、今後の東港金属の道標としたいと思います。今回は、東港金属株式会社の3代目社長 福田勝年の時代の後期(昭和60年～平成14年)を紹介いたします。

1985年(昭和60年) 8月 3代目社長(福田勝年)誕生

昭和60年8月20日代表取締役専務であった福田勝年が3代目社長に就任し、福田庸一が会長に就任。

勝年は昭和41年大学卒業後東港金属に入社し、父の庸一が築いた土台の上で、非鉄原料、銅合金精錬等の現場で修業を重ねてきたが、「年々利幅が圧縮される銅・真鍮スクラップを扱っただけではやっていけない」との考えから、旧来の相場に振り回される故銅ベースの商いの形態を脱皮して、選別技術が難しく、品質管理も要求されるリン青銅、洋白を主力とした商いへとしようと努めた。

1994年(平成6年) 3月 電線リサイクル処理(ナゲット)プラント導入

平成6年3月フランスより電線リサイクル処理(ナゲット)プラントを導入し、本社ヤードに設置。平成10年頃までは月300t前後のナゲット生産が続いた。

1994年(平成6年) 6月 産業廃棄物収集運搬業、9月に中間処理業の許可取得

平成3年に「再生資源の利用の促進に関する法律」が制定され、平成5年には「環境基本法」も制定されたのを機に、業績を上げるためには銅や真鍮を扱うだけでなく、新分野を切り拓くことに意欲を持っていた勝年は、今後の日本の産業にはリサイクルが必要であり、伸びる分野であることに着目し、平成6年6月に産業廃棄物収集運搬業及び同年9月には中間処理業の許可を取得した。

ここに、積極的に新分野である地球環境保全へ貢献する「総合リサイクル企業」への道を拓き、現在の東港金属ビジネスモデルが礎を築き上げられた。

1995年(平成7年) 8月19日 会長福田庸一他界

東京非鉄金属商工協同組合、非鉄金属問屋組合全国連合会(現非鉄金属リサイクル全国連合会)設立に奔走し、また、東京金属事業厚生年金基金、東京金属事業健康保険組合を設立、業界の「年金」や「健康保険」の生みの親となった庸一の他界は、業界から大変惜しまれた。

1997年(平成9年) 10月 東港金属株式会社が東京銅合金工業株式会社を吸収合併

東港金属株式会社が東京銅合金工業株式会社を吸収合併し、2社に分かれていた精錬部門(東京銅合金工業株式会社)と営業部門(東港金属株式会社)が東港金属株式会社に一体化した。

2001年(平成13年) 4月 家電リサイクル法施行

家電リサイクル法施行に伴い、指定引取場所を開設。家電Aグループ都内9拠点のひとつとして、認定される。

2001年(平成13年) 11月 東京都と「エコライ協定」を締結

健康で安全な環境の確保と持続発展可能な社会への変革を、東京から実現するために、産業廃棄物の減量・資源化・適正処理について法令に定める以上の取組を推進し、その取組を広く都民に公表することを目的に協定を締結していたが、制度が定着したため、平成18年度以降は第三者評価制度へ移行した。

2002年(平成14年) 9月7日 3代目社長福田勝年が急逝し、現在の福田隆代表取締役が4代目社長に就任。



3代目社長 福田勝年



ナゲットプラント



家電リサイクル指定引取場所に認定



受け入れた使用済家電製品

1902年(明治35年)創業時の初代社長福田勝西から先代社長福田勝年までの歴史を、環境報告書に2014年版から5回に亘りアーカイブとして掲載させていただきました。

本紙面上でのアーカイブ欄は今回を最終回とさせていただきますが、現在も福田社長の下で新たな挑戦が続いており、更に充実した東港金属アーカイブスとなることをご期待ください。(編集事務局)

9 編集方針

◆ガイドライン対照表

環境報告書ガイドライン 2012年版(参考 2018年版)

	掲載ページ
【環境報告の基本的事項】	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	22
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	22
(3) 報告方針	5,19
(4) 公表媒体の方針等	14,22
2. 経営責任者の諸言	1,19
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	1,5,19
(2) KPIの時系列一覧	6,8
(3) 個別の環境課題に関する対応統括	5,6,7,8,12,14,15,17,19
4. マテリアルバランス	7,8
【環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	5,19
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	5,6,19
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	6
(2) 環境リスクマネジメント体制	6
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	12
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	1,5,12,15,17,19,20
(2) 環境に関する社会貢献活動等	14,15,16
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	8,12,19,20
(2) グリーン購入・調達	12
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	9,10
(4) 環境関連の新技术・研究開発	9,10
(5) 環境に配慮した輸送	5,6,7,8,19
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	5,7,8,9,10,12
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	5,7,8,9,10,12
【事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 資源・エネルギーの投入の状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	6,7,8
(2) 総物質投入量及びその低減対策	6,7,8
(3) 水資源投入量及びその低減対策	7,8
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	6,7,8
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	6,7,8
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	6,7,8
(3) 総排水量及びその低減対策	7,8
(4) 大気汚染、生産環境に係る負荷量及びその低減対策	6,7,8,9,10,11,12,19
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	9,10
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	6,7,8,9,10
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	9,10,11,12
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
【環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	12
(2) 社会における経済的側面の状況	12
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	1,15,16,17,19
【その他の記載事項等】	
1. 後発事象等	
(1) 後発事象	2,7,13,14,16,19,20
(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

■編集方針

東港金属株式会社は、当社の環境に関する考え方と取組姿勢を中心とした業務内容そのままを、定期的に報告することにより、ステークホルダーの皆様の良きリサイクルパートナーとして、事業活動の透明性、信頼性を評価、ご理解いただきたく、環境報告書を作成いたしております。お気づきになりましたことなど、ご指摘ご指導賜りたくお願い申し上げます。

◆環境報告書対象組織・期間

環境目標設定及び達成状況の対象組織は、ISO14001と同じく東港金属株式会社(本社・本社工場、千葉工場、東京事務所)及びトリアリアル株式会社(本社営業所)としました。

また、マテリアルバランス及び目標設定以外のエネルギー投入量等の実績は天童支店も含めております。

●対象期間

第73期(2017年7月～2018年6月)をまとめたものですが、報告内容には一部 第74期の内容を含みます。

●準拠、参考ガイドライン

この環境報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン(2012年版)」を基に「環境報告書ガイドライン(2018年版)」を参考にして作成いたしました。

●発行 2018年11月

【お問い合わせ先】

東港金属株式会社 経営企画室
〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
TEL: 03-5767-8860(代)
FAX: 03-5767-8870
ホームページ <https://www.tokometal.co.jp/>

当社では、2007年より【環境報告書】を作成しております。今までの環境報告書は、当社のホームページからご覧いただけます。

